

平成28年6月14日/ 小松島西高校

主催：小松島西高校

主権者教育講演会



「私たちのまち、国、未来、この一票」

講師 徳島文理大学総合政策学部(兼総合政策学研究科)教授
徳島県及び高知県参議院合同選挙区選挙管理委員会委員長
西川 政善氏

はじめに

今までは、高等学校で選挙や政治の話をしてはいけなと言われてきました。去年の法律改正によって70年ぶりに改正がなされ、18歳以上の人は、自分たちの考えを、地域や国、さらには世界各地に繋がる政治や行政について考えながら判断して、投票ができることになりました。

選挙について

選挙とは、国会議員や市町村長、市議会委員などの自分たちに代わって政治を行う代表者を有権者の一票一票によって選ぶことです。選んだ人がふさわしくないと判断すれば、次の選挙で辞めさせることもできます。選挙は国民が政治に参加する最大の機会なので、おろそかにしてはいけません。選挙は民主主義の根っこであり、幹でもあり、これほど大事なものはないと意識していただく



い。投票に行くという事は、豊かな暮らしや理想的な世界を建設するための代表者を選ぶということです。自分でしっかりと学んで、考えて、それから判断します。正解はありませんが、最もそれに近い最適解を導かなければなりません。貴重な一票を投じることで、私たちの意見や願いやすくなります。そんな大事な選挙ですが、投票率がどんどん下がっています。徳島県は、全国の中でも一番低い部類に入ります。

年齢別でみる選挙

徳島県の20〜24歳の人は、25%しか選挙に行ってません。70〜74歳までの人を見ると、徳島では60%、全国では72%が選挙に行っています。若い人はなぜ選挙に行かないのか聞いてみると、「政治なんて分からない」、「何を基準に選べばいいのか」「意見が反映されているか」「意見が反映されていないか」「行っても行かなくても一緒」といった意見が出てきます。そ

して最後に「選挙や政治は大人の問題で、自分ではなく両親の問題」と言いました。代替の若い人がこういった印象を持つことによって、あまり選挙に行かなかったのではないかと思います。

これでは若い人の意見が政治の世界に届きません。例えば、年金や福祉の補助政策、健康保険などを手厚くしてほしいという、年配の人の意見が反映されて、若い人たちの意見は反映されなくなる可能性が有ります。投票にもいかず、若者の声も聞こえてこないとなると、現状に満足していると捉えられかねません。これをなんとか改善しようとして、18歳、19歳でも投票できるように法改正がなされました。

こうした流れは、現在世界で本流になっています。世界には192の国と地域がありますがその中で176の国と地域が18歳から投票できる権利を認めています。このように日本で18歳からの選挙を認めて、若い人たちの意見を十分聞かせ

てもらおうということで、素晴らしい改革だと思います。世界中の若い人たちは「選挙は自分に関係ない」とは考えず、若いなりに考えて投票しています。これが世界の大方の選挙に対する姿勢です。中にはアルゼンチンやニカラグアのように16歳からの投票が可能な国まであります。

誰に投票すればいいか

投票するとなれば、どの候補者や政党に投票すればいいのかわからない問題が出てきますが、これは様々な資料に基づいた勉強が必要です。政党や候補者が政策を訴えるので、それらの政策に関する情報を収集します。候補者のポスターや新聞折込などの選挙公報、他にもテレビなどで情報がどんどん出てくるので、それらを見て学びます。この「内容を知る」という行動が大切です。今はインターネットの時代なので、候補者や政党



のHPが見えるようになるので、関心がある人はそれを見て勉強することもできます。

選挙期間に入ると候補者が街頭で演説しているの、足を止め内容に耳を傾けて学ぶこともできますし、個人演説会や政見放送などもあるの、見て学び、内容を知った上で自分の頭で考えて、自分の意見としてまとめることが重要です。



そして、自分の考え方に近い候補者を選んで、一票を投じます。

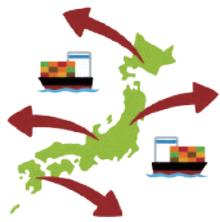
小さな市町村議員などでは一票は大きく、開票した時に同数ということがあります。もし票数が同じの場合は、くじ引きで決めます。くじを引く順番をくじ引きで決めて、本番もくじ引きで決めます。自分が持っている一票が大きな力を持っていることを頭に入れておいてください。

投票日は日曜日で用事があるからいけない、という人は、告示になって候補者が出そろった後な

ら期日前の投票ができません。投票は5分もあれば終わります。投票日に都合がつかない人は期日前投票で投票してほしいと思います。私たちの夢や県、国、自分たちの夢多き将来がよい方向に向かうようにするため「若者はこんな考えを持ってま

選挙に学ぶ

昔、阿波藩は小松島の中央会館のあたりから、大坂や東京方面に藍玉を載せた船を送り出していま



現地で様々な衣服に藍が使われて大変な商いになったという歴史があります。私が平成元年に小松島市の市長になろうとした時、小松島をどう変えるかを考えて、港を整備して全国各地にルートを持つと

と考えました。小松島は天然の良港で水深も深いので、国際港を作ってそこから世界の7つの海に結びつく港を作ることが小松島の将来の発展に繋がると考えて、それを公約に掲げて立候補しました

日本の周りには様々な島があります。領土の面積は世界で61番目と大きな国ではありません。しかし領土に沿った海である排他的経済水域を含めれば、世界で6番目の広さを持つ国となります。

排他的経済水域の海底にある様々な資源は、全て日本固有の資源として、他の国に自由にさせないと言う権限を国際条約によって守られています。日本は海洋国家そのもので、日本の海岸線の40km毎にひとつ港湾の停泊地があります。小松島はこういった港湾を中心に発展すべきというのが私の公約でした。

今回の法改正で18歳からの投票が可能になりましたが、それから7、8年経つと、市長や市町村長、市町村議会議員に立

候補できるようになりません。自分が票を入れてもらう被選挙権者の立場になるかもしれないという事も考えておかなければなりません。

18歳というのは、あらゆる可能性の中から持ち味や得意とするものを見つけて出して力を入れていく年代です。そのきっかけ作りの一つが、今回の「投票する権利」です。私は市長をやめて3、4年後に100日かけて世界一周の船旅をしました。



日本の地図では日本は世界の真ん中ですが、外国では真ん中にあった日本列島が東の端になっています。人間は見る立ち位置を変えると頭の中の考え方も変わってきます。決まった考えただけではなく、視野を広げるといふ気持ちを持ってほしいと思います。

選挙の中にはやるべきこととやってはいけない

ことがあります。やってはいけないことをすれば法律に触れます。不正なく堂々と一票を投じて「政策が分からない」「誰に入れたらいいか分からない」ということがないようにしっかりと学んで、知り得た知識を周りの人と分析・ディスカッションをして、自分の気持ちをまとめていくという合意形成の過程を習得してもらいたいと思います。

最後に

古代ギリシアの哲学者、アリストテレスはこんな言葉を残しています。

「その国の、その地域の将来がどうだろうかという事を見たいときは、その国や地域の青年たちを見よ。青年たちの考えや行動に、その国やまちの将来将来像が必ず見えてくるだろう。若者が中心なんだ」

知り、学び、教養を高めることはもちろん大事なことです。その知識を生かして、自分の意見を主張できるように若者になってください。